



平成 27 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 アピックヤマダ株式会社
代表者名 代表取締役社長 押森 広仁
(コード番号 6300 東証第二部)
問合せ先 取締役企画部長 小出 篤
(TEL. 026-275-2111)

中期経営計画の策定について

アピックヤマダ株式会社（本社：長野県千曲市、社長：押森広仁）は、今般、平成 27 年度から平成 29 年度の 3 年間を対象とした「中期経営計画」を策定いたしましたので報告申し上げます。

1. 中期経営計画策定の経緯

当社グループを取り巻く事業環境は、世界規模での半導体メーカーの統廃合、半導体市場の需給バランスの変化及び先端パッケージ開発などに伴う技術開発など急激に変化しております。当社グループとしては、その事業環境の変化に対応できる企業体質へ転換を目的として平成 24 年度から平成 26 年度にかけて中期経営計画“**Innovation 3**”を策定し、実行してまいりました。その結果、市場環境の回復には遅れがあったものの当初の想定どおりの動きとなり、その市場環境に即した製品の開発・投入および事業の入替えが進捗した一方、それに対応した生産体制の変革には未だ改善の余地を残す結果となりました。中計最終年度である 2015 年 3 月期には営業利益段階での黒字化が図れましたが、まだ満足できる水準にはありません。

前中期経営計画の成果と反省を踏まえ、当社グループでは平成 27 年度から平成 29 年度の 3 年間を対象とした「中期経営計画“**APIC 実現!**”（注）」を策定いたしました。概要は以下のとおりです。

（注）“**APIC 実現!**”

「私たちは明日に繋がる事業を自ら創り、私たちが新しいアピックヤマダを創り上げていく」この決意を込めて中期経営計画のテーマを“**APIC 実現!**”としました。「社名である APIC の A=ADVANCE（先進性）、P=PRECISION（精密性）、I=INTELLIGENCE（知性）、C=CREATION（創造性）の精神を我々のものづくりと製品に徹底的に注入し、その各々の分野での頂点=APIC を実現させていこう」という意味が込められています。

2. 中期経営計画の概要

(1) 目的

市場のニーズに応えた製品・事業へ、絶えず事業構成の入替を進めるとともに、社内体制を変革し、収益を安定して確保する。

(2) 基本戦略

- ア.先端分野を中心に「アピックヤマダ独自技術」で差別化した製品、サービスでその分野で頂点を確保する。
- イ.「自社の強み」であるブランド力・技術力を強化・活用し、新たな市場・業界を開拓する。
- ウ.自社のシーズ技術（インサート成型、組立実装、高速移載、画像処理、制御技術、超精密プレス、静電噴霧等）を徹底活用し新規事業開発を進める。
- エ.“早く”、“安く”、“良い”「ものづくり」を実現するために国内外の開発・生産体制を見直し、組織力・人材能力を強化する。

(3) 事業毎の戦略

ア.電子部品組立装置事業

- ①重点4市場でシェアの確保とさらなる拡大を図る

※重点4市場…スマホ等ハイエンド向け半導体市場、高輝度照明向けLED市場、車載半導体市場、WLP・LPM市場

- ②新製品構成に合致する柔軟かつ安定した生産・販売体制を構築する

イ.電子部品事業

- ①プレス、インサート成型技術を機軸に、生産技術的付加価値を追加し、より完成品に近い総合的部品製造の構成比を高め、事業構成を大胆に変えていく。

- ②変化する事業構成に合致する柔軟かつ安定した生産体制を構築する。

(4) 経営目標（連結）

	2015年度	2016年度	2017年度
売上高	11,900百万円	12,900百万円	14,000百万円
営業利益	210百万円	450百万円	700百万円
売上高営業利益率	1.8%	3.5%	5.0%

以上

※本資料に記載されている将来に関する記述及び数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。